

○内谷重治市長 お答えいたします。

ふるさと市町村圏の基金につきましては、置賜広域行政事務組合の中でも、ぜひこれをそれぞれの自治体で有効に活用できるように話し合いといいますか、検討するように呼びかけてまいりたいというふうに思います。

あと2点目につきましては、あとは議会に任せたと非常に投げやりな無責任な考え方でなくて、どっかの時点では認可保育所と同じような料金体系をとらないと私はだめだろうと思っております。ただし、今回は準備等々、行革の集中改革プランとか、そういったものを大体まとめ切ったのが、行革の推進委員会もそうなのですが、9月末ぐらいまでかかってしまいました。10月からは、今度それぞれ地区長会であったり、いろんな団体への説明等々を行ったんですが、残念ながら今回保護者の皆様に十分な説明ができなかったという部分については非常に反省しております。何とかこの部分は議会の皆様にもご理解いただいて、ただ、ケースによってはこれからいろんな意味で見直しをかけながら、今度は料金を改定することなしにサービスの部分を上げられるような、そんなことを早急に検討すべきというふうに考えております。

竹田博一議員の質問

○佐々木謙二議長 次に、順位9番、議席番号1番、竹田博一議員。

(1番竹田博一議員登壇)

○1番 竹田博一議員 私は、通告しております3点について順次質問をいたします。

最初に、フラワー長井線について、市長並びに企画調整課長に質問いたします。

フラワー長井線は、昭和63年にJRより鉄道

施設等の無償譲渡を受け、新車両にて営業した山形鉄道株式会社も19年余りたちました。以来、地域の重要な交通機関としての役割を果たしてまいりました。しかしながら、近年は車社会や少子化の影響で乗客数の減少、特に乗客の中心である高校生が大幅に減少しております。そのため経営状況は非常に厳しく、経常利益は毎期赤字を計上し、各種補助金による支援に頼っている状態です。特にここ数年は基金からの損失補てんの補助金額が増加したため基金残高も減少し、新たな支援体制の検討に入っている状態です。経営改善計画を15年度より実施し、コストの大幅な削減や各種イベント、旅行の手配、グッズ販売等、できる限りの最大の努力を行っている状態です。

しかしながら、今の状態のままでいけば、やがて基金も底をつくことになりかねません。そして一番大事なことであるお客様の安全性から、保線、駅舎、鉄橋の補修、列車の更新などの問題が山積みの中で長井線を存続していくには、市民に危機感を持って利用数の拡大に努めてもらうことと同時に、県から、そして沿線自治体からの継続的な支援をいただくことが不可欠であります。フラワー長井線は、通学する高校生にとってなくてはならないものであります。体力があるうちの有効な策はあるのか、お伺いいたします。

次に、観光事業の基本的な考え方について市長、商工観光課長に質問いたします。

3月に入り、大雪であった雪の量も徐々に減って、少しずつではありますが、春の気配が感じられるようになりました。国の天然記念物である樹齢1,200年の久保の桜の芽も少しずつ膨らみ、あと1カ月ぐらいたてば見事な花を咲かせることと思います。多くの観光客でにぎわうことを念ずるところであります。

そこでお伺いします。一般会計予算の雑入で観光事業協力金500万円を見込んでおりますが、

その内訳を伺います。

また、募金箱を昨年に引き続き設置予定とのことですが、このことについて私は疑問を感じます。本来、観光事業というのは、お客様にお越しいただき、さまざまなお土産を買っていただいたり、食べてもらったり、泊まってもらったりして収益を上げるものだと思います。募金箱を設置して直接お金をもらう物ごいの手段はお客様にひんしゆくを買い、収入を得るためなら手段を選ばないやり方は市長の言っておられるもてなしの心の趣旨に相反していると思います。長井市のメンツにかけても募金箱の設置はやめるべきだと思いますが、ご所見をお伺いします。

次に、高級ブランド米沢牛について、市長並びに農林課長にお伺いします。

市長は施政方針の中で、本市農産物等のブランド化を図り、レインボープランの里として全国に売り出すために、生産、加工、販売に農家がかかわり、付加価値を高め、実践することに支援する方針ですが、私も同感であります。そして国の方針に沿い、エコファーマーの認定を受けた農家などが化学肥料や化学合成農薬を大幅に低減した先進的な営農活動を行う事業を支援すると述べられております。今、食の安全が問われているとき、まことに利にかなっているものと思います。

ブランド品といえば、置賜一円で飼育されている黒毛和牛があります。そこで3つ目の高級ブランド牛、米沢牛について伺います。

米沢牛は、全国では松阪牛、神戸牛とともに3本の指に数えられ、一流ブランドの牛であります。テレビの食べ物番組でも時々紹介され、日本一おいしい米沢牛と評価されております。その有名度は全国に知れ渡っていると思います。長井の和牛畜産農家においても、サシの入ったおいしい肉をつくるために日々、研究努力をしておられます。その結果が実り今日まで数多く

のチャンピオン牛を産出してきました。

2月21日の山形新聞の記事によりますと、「山形県からスーパー種雄牛誕生」という畜産農家にとって、特に繁殖農家にとって待望の明るいニュースが報じられました。その名号は平忠勝という牛で、サシ全国一、枝肉重量3位、質と量を兼ね備えており、生産拡大へ大きな期待を持っているところです。しかし、最近、穀物から燃料をとるバイオ燃料の関係から国際的にえさ等の価格が上昇し始めており、畜産農家にとってコスト高は免れないことが予想され、前途多難であります。

そこでお伺いいたします。今、預託牛制度がありますが、その預託牛に対して市から1%の利子補給をいただいております。しかしながら、頭数に制限がある状態であります。畜産振興の面からも頭数の枠を拡大すべきと思いますが、ご所見を伺います。

次に、米沢牛のお祭りということで、私の考えていることを述べさせていただきます。

米沢市では8月ごろに米沢牛まつり、川西町では黒べこまつり、飯豊町ではゆり園の時期に黒べこまつり、高畠町ではワインまつりと同時にお祭りを行っているようであります。白鷹町でも牛肉まつりを開催しているとのこと。我が長井市でも行政が主体となり、長井黒べこ祭りなるものを盛大に行うことを提案いたします。お祭りは市の活性化のためにも有効な行事であると考えますが、ご所見をお伺いします。

これで壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○佐々木謙二議長 大沼議員が着席しましたので、ご報告をいたします。

内谷重治市長。

○内谷重治市長 竹田博一議員のご質問にお答えいたします。

大きく3点ほど質問をちょうだいいたしました。まず第1点目のフラワー長井線についてで

+

ございますが、毎年赤字でも存続は可能かどうかということでございますが、現在、県と沿線2市2町はフラワー長井線が設立された昭和63年から5年間で基金約6億円を積み立てたところでございます。当初はその発生した利子によりまして赤字補てんとして助成してまいりましたが、ご承知のとおりバブル崩壊等に伴う金利の下落で利子のみの支援は不可能になったということから、平成12年度から基金を取り崩して支援をしてきたところでございます。以降、基金は減少を続けまして、平成16年度末には基金残高が1億円を切る見込みとなり、議員おっしゃるとおり存続が危ぶまれる事態となりました。

そこで県と沿線2市2町は平成17年から3年間、新たな5,000万円ずつ積み立てまして、それにより財政的に支援を行うこととなりました。しかしながら、平成17年度以降も少子化等の影響で収入及び損益は改善せず、平成19年度は県と沿線2市2町で基金に積み立てる金額を5,000万円から6,000万円に増額いたしまして財政支援を行いたいと考えているところでございます。そんなことで、まず19年度については6,000万円という新しいスキームで県の方も今、審議いただいているところだと思いますが、沿線の2市2町もこれに合わせて基金を積み立てる予定でございます。

2点目のコスト削減にも限界があるのではないかとこの点でございます。これは議員ご指摘のとおりでございます。自家用車の利用の進展あるいは少子化による通学定期収入の減少等により極めて厳しい状況にある山形鉄道株式会社でございますが、平成15年6月に経営改善計画を策定し増収対策に取り組むとともに、車両運行本数及び経費の削減に取り組んでまいりました。しかし、安全運転確保等の観点から、おのずと限界があるのも議員ご指摘のとおりでございます。

平成12年、13年と続けて発生いたしました京

福電鉄越前本線の列車衝突事故あるいは17年4月にJR福知山線で発生いたしました脱線事故の惨事は記憶に新しいところでございますが、長井線は利用者の7割、8割が置賜の将来を担う高校生だという事情もあり、その安全運行はとりわけ重視しなければならないということだと思います。山形鉄道は平成14年度に安全性緊急評価を実施いたしまして、平成16年度から緊急性の高い鉄道路線、信号保安設備及び車両の整備を行ってまいりました。この整備に対し行政は、鉄道軌道近代化施設整備費補助金として、国、県及び沿線2市2町で支援をしている状況でございます。

そういったことから、まず3点目の体力のあるうちに有効な策はあるのかということでございますが、何といたしても存続にはさらなる利用拡大の取り組みが重要になってくるわけでございますけれども、現在、地域住民全体によります利用活動を促進するための具体的な行動計画としてアクションプログラムを平成19年度中にとということで、山形鉄道株式会社を中心となって早急に策定する予定でございます。フラワー長井線は年間77万人が利用する通学、通勤者や高齢者の足であり、観光や地域活性化の資源としても、その存続は欠かせないものでございます。ぜひ竹田議員始め皆様のお力もおかりしまして、会社、住民及び行政が一体となって乗車目標が達成できるような計画、体制づくりを目指してまいりたいと思います。

なお、3月14日にそういったこれからのフラワー長井線に関するワークショップということで、国土交通省の東北運輸局の方から村上次長さん、あとは有識者としてまたもう一方、私も含めてディスカッションなどもございますので、ぜひご出席いただければ大変ありがたいと思います。

私といたしましては、通学はもうなかなか頭打ちなんですけど、まだまだする余地はあるだろ

うと。例えば私立高校などでは生徒の確保のためにバスをチャーターして白鷹、長井方面の子供を乗せていくというフラワー長井線を使わないやり方、運賃が高いということでそんな動きも現在行われておりますし、また通勤も、やはり会社自体あるいは行政から各企業、団体等にもっと働きかけをしてダイヤの編成も変更も含めて検討する余地はまだまだあるだろうし、あと観光客をどのようにしてもっとふやすかということ、鉄道の持つ環境に優しいという21世紀型の乗り物として見直されているわけでございますので、そういったこともいろいろ考慮しまして鉄道をまちづくりを生かす、そんな視点も必要なのではないかと思っております。

次、2点目の観光事業の基本的な考え方でございますが、まず第1点目の観光事業協力金500万円の内訳はということでございますが、久保ザクラにお越しになる観光客の数は、おとししが約15万人、昨年は約13万人と非常に短期間にお客様がおいでになる花の観光地としては久保ザクラは長井最大だと言えます。

昨年は初めてお越しになる方の善意に頼り募金箱を設置させていただきました。趣旨説明の看板と募金箱を設置して特に説明職員などを置かずに対応しましたが、49万円ほどの善意をお寄せいただきました。昨年の積算は総額としては同額の500万円で、ことしと同様に100円のワンコインを5万人として見立てました。ただ置いているだけの募金箱では観光客の皆様には訴えるものがなかったという事実を知る結果だったと思います。ことしは募金からもう一步踏み込んで、説明員を配置いたしまして桜の保護、管理、周辺整備などへの協力金として観光事業協力金として500万円を見込ませていただきました。1人当たり100円の金額で5万人と、来館者の3割から5割の方々からいただくという試算をしております。

なお、滝桜で有名な福島の三春町では協力金

の一例として、歩いてきた方からは300円、乗用車だと1台500円の駐車料金と協力金500円の計1,000円をいただいております。18年度収入といたしましては協力金が約3,000万円、駐車料金が約2,700万円、19年度で協力金が約2,000万円、駐車料金が約2,500万円となっているということでございます。なお、観光客は約30万人ということでございます。この例も参考にしながら隣の白鷹町では駐車料金をいただいているようなこともございますので、考えたものでございます。

次に、募金箱の設置はおもてなしの心に反するのではないかということでございますが、全国の多くの観光地、桜の観光地でも保護協力金ということでいただいております。古木に感動し、自然の発意で応援していただくという仕組みは間違った方向ではないと考えております。昨年は趣旨の看板やお願いのチラシを作成いたしましたが、それを見たお客様が自発的に応援してくださったこの募金は本当に貴重なものであり、これからもつながっていく桜への思いやりの心だと考えております。積算は1人100円としておりますが、金額の多寡にかかわらずお受けするという考え方でいますし、また協力いただいた方には感謝の気持ちとして記念となるチケットまたは絵はがきのような印刷物をお上げしたいと考えております。自分もこの桜を守っている一員だという気持ちになっていただけるような、そういうふうな取り組みにしたいと考えております。

おもてなしの心は、まち全体で表現したいものでございます。昨年度から始まった市内のにしき旗、さらにはことしはタクシー乗務員の研修会等も行っており、桜を愛する市民の心を持って歓迎とおもてなしの心を形にさせていただきたいと思っております。物ごいではなく、おしよしの心だというふうにご理解いただければと思います。

なお、桜を守り、維持し、観光客の方々に気持ちよく桜をごらんいただくためには多額の経費を要します。ご指摘のように売店の売り上げやイベント収入を考えればよいのですが、従前からの売店形態で場所も少なく、そこから収入を上げることは困難であり、イベントなどの場所の関係から難しい状況にあります。また駐車料金としてご負担いただくことについては、議員もご承知のとおり現在の駐車場の状況から駐車料金をいただくのはかなり難しいと、相当整備しないと難しいというふうに判断したところでございます。

最後になります。高級ブランド米沢牛について、米沢牛を飼育している畜産農家に支援をすべきではないかということでございますが、この米沢牛につきましても飯豊町、米沢市に次ぐ長井市が次の産地だということで、枝肉の共進会等、大変優秀な成績をおさめておられる生産者の皆様に、まず敬意を表したいというふうに思います。

長井市における米沢牛あるいは肥育牛振興の取り組みでございますが、1つには、議員ご指摘のとおり家畜預託事業補助がございます。これは農協が家畜を生産者に預託する資金に対する補助でございまして、無利子とするため2%の利子補給を行っております。枠の拡大ということでございますが、現在1戸当たり10頭から7頭に枠を狭めざるを得ないような状況でございまして、総枠では従来どおりの予算化をしております。ですので、実際に農林課の方からも肥育牛の振興会等々、枝肉共進会等々から具体的な要求が、要望等もないということでございまして、ぜひその辺は議員の方から、そういったことでいろいろ困ってる農家は畜産農家にかかわらず園芸、稲作、これは全部原油等の値上げで大変だと思いますので、もしそういう状況がございましたらお願いしたいと思います。

畜産畜舎の建設や家畜の購入などの際の農業

経営基盤強化資金、略称でスーパーL資金でございまして、この資金への利子補給も行っております。19年度におきましては国の強い農業づくり交付金を受け、草岡畜産振興会における稲わら収集機等の導入支援を行ってきておりますので、なお、その辺もご検討いただければと思います。

最後に、べこ祭りでございますが、これはなぜ長井の場合なくなったのかという経緯をもう少し調べてみなきゃいけないわけですが、議員ご指摘のとおり、米沢、川西、飯豊等々でやっております。これは行政だけがやろうとしても到底できないこととございまして、やはりそういう振興、生産者団体との協力がないとだめだと思っております。

車座集会の中でぜひべこ祭りを復活すべきだというご意見等々もいただきましたので、当初予算には20年度計上しておりませんが、20年度に検討してまいりたいと思いますし、ぜひ竹田議員の方からは、そういった生産者団体との取り次ぎといいますかね、仲介をお願いできれば大変ありがたいというふうに思っております。以上でございます。

○佐々木謙二議長 松木幸嗣企画調整課長。

○松木幸嗣企画調整課長 竹田博一議員のご質問にお答えいたします。

私の方からは、市長が方針について説明していただきましたので、補足なりさせていただきたいと思います。

第1点目の存続等につきましてですが、これは基金の問題なりを説明させていただきたいと思っております。

6億円ということで最初は出発しているわけなんですけども、その発生する利子、当時一番早いところで、いい数字なんかはやっぱり5%強の利息なんかもついたりしてございまして非常によかったわけなんですけども、もうご案内のとおり、低利な時代になってきていると。また、基

金も減ってきていますんで、利息は非常に小さくなってきているというのが大体のイメージであります。

開業10年たってきているわけなんですけれども、市長が申し上げたように、信号機の関係の設備であるとか、延命工事であるとか、そういったことをやりながら存続に向けてやってきた状態であります。

ただ、ご心配のとおり、基金については非常に、18年度の末段階で1億2,000万円余くらいでございますので、今回、19年度、今後除雪が余り発生しないということであれば、9,000万円程度までに減少していくのかなというふうなことで思っているところであります。

また、コスト削減ということですが、これについては、会社が定めています経営改善計画、22年度までであります。経費節減でありますとか増収対策、会社の自助努力という部分であります。2番目には、住民支援組織の立ち上げというようなことであったり、沿線自治体の支援であったりという3本柱で取り組んできたのかなというふうに思っています。

その結果、車両なり本数についても減ってきておりまして、運行本数なんかは14往復から12往復というようなことであったり、運転手の人員についても20名から16名ということで、コスト削減等々を行ってきているのかなというふうに思います。

限界があるのではないかとというようなご質問でありましたんですが、山形鉄道の特別会計の補正予算でも申し上げたとおり、原油高等々の影響がありますんで、安全運行をするためにはコストの削減も相当限界に近づいているというふうに思っているところであります。

有効な策ということで、アウトラインも市長がおっしゃるとおりでございまして、1つはアクションプログラム等、中期的な見通しをした検討会というのが考えられています。

アクションプログラムはご案内のとおりでございまして、非常にこれについては総合支庁も急いでおりまして、3月中にまず春の期間、言ってみれば桜の期間についてのアクションの計画を策定していきたいと。言ってみれば、今まで、置賜さくら回廊等と連動してきた部分もあるんですが、それにどのくらい肉づけができるかというのが早々にまとめるということで、あす、あさつてに次の会議、2回目の会議ということで、年度内には何らかの形をつくっていきたいということで、あと、5月に入りますと1年間のアクションプログラムをとにかくつくるといって進んできております。

また、中期的な検討会でございますが、こちらについても置賜総合支庁、支庁長が先頭に立って、実効性があるものというようなことで、ご案内のとおり、国土交通省の東北地方運輸局の方に依頼、協力をしてきた過程がございます。快く引き受けていただいておりますので、実際のプログラムをどうするかということについても協力、また、局自体で持っている事業、予算を使ってでも考えましょうというような前向きな発言をいただいておりますので、アクションプログラムなり検討会を当方としては立ち上げて、利用拡大、また増収の方に向けていきたいなというふうに思っていることであります。

また、市長の方から、14日の件でございますが、ワークショップというような形で、東北地方運輸局の次長、村上玉樹次長と、当方でもお願いしています、これまで地域の活性化なりに長井の方がかつていろいろお世話になりました志賀秀一さんという方がいらっしやいまして、そちらの方がコーディネートしていただくと。あと、地域住民代表として長井市長が壇上に上がっていただくという形で、ぜひ本気で長井線を語るというようなことを進めて、沿線の持っている今まで見ていなかったエネルギーを何とか大きなエネルギーにしていかないと利用拡大は進ま

+

ないんじゃないかというような、これまでよりも少し大きなスタンスでワークショップなり議論というような形で進んでおるところで、こういったことをきっかけに利用拡大なり増収の方に向かっていければというふうなことで取り組んでいるところでございます。以上です。

○佐々木謙二議長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 竹田議員のご質問につきましては市長が申し上げたとおりでございますが、多少の補足をさせていただきます。

白鷹町につきましては、さくらまつり協力金というふうなことでいただいておりますし、南陽市でも募金箱を設置しているというふうな状況があるようでございます。

それから、おもてなしの心についてというふうなことでございますが、久保ザクラ等の古木と申しますか、一本桜というんですか、そういったふうなものというのは、あやめ公園あるいはつつじ公園といったふうな、あるいは群生している桜並木という、そういったふうなものとはまた違ったような雰囲気がございます、お客様の方からは、「久保ザクラを見て力をいただいた」というふうな感想をおっしゃられる方がございます。そういったふうな方におかれましては、その桜を守るという、あるいは命を守るというふうなことで、ある意味では参加をしたいという、自分の気持ちを伝えたいというふうな状況もあるんだろうというふうに思います。逆に、そういったふうな形でご協力をいただくということが、桜、それから桜を取り巻く人々をつなぐことにもなるだろうというふうなことで思うものでございます。

そういったふうな形でご協力をいただけるように、今年度は桜の現状あるいは樹勢回復作業、あるいは地元の方の熱意というふうなものを伝えるような形で説明をさせていただきながらご協力をいただくというふうな形にしていきたいというふうに思っているところでございます。

○佐々木謙二議長 遠藤正明農林課長。

○遠藤正明農林課長 私の方からは、家畜預託事業の関係につきまして詳細を答弁させていただきたいと思っております。

家畜預託事業につきましては、利子補給率、市長から申し上げましたように、2%ということで、24カ月が限度でございます。平成19年度につきましては、1人当たり、最高で10頭というふうなことで、実績といたしましては、196頭で、延べ利用者が30人となっているところでございます。

補助金の支出額につきましては126万4,000円というふうなことでありまして、平成20年度の予算につきましては、1人当たり7頭というふうなことで査定をされているところでございます。

これにつきましては、1つは、自立計画の見直しの関係がございますし、さらに、米沢牛につきましては経営力がついてきているんじゃないかというような判断があったわけでありまして、

ただ、最近になりまして飼料が相当高騰をいたしております、畜産経営におきましてもかなり経営に厳しさが出てきているということも事実でありますので、予算額といたしましては140万円措置されておりますけれども、生産者の状況等を調査いたしまして、予算の枠内で検討を図ろうか、今後とも検討を深めてまいりたいと考えているところでございます。以上でございます。

○佐々木謙二議長 1番、竹田博一議員。

○1番 竹田博一議員 商工観光課長にお聞きいたします。

去年度は募金箱に49万円ほど入ったというふうなお話でございました。それがことし500万円を予定しているというのがちょっと理解できないんですけども、そこのところを説明をお願いしたいと思います。

○佐々木謙二議長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 お答えいたします。

昨年度も実は1人平均100円の5万人というふうなことで予定をさせていただいたところでもございました。ただ、その際には、看板と申しましょつか、説明板というふうなことでしかやっておらなかったというふうなことでございます。それにこたえていただいた皆さん方から約50万円ほどいただいたというふうなことでございますが、今年度は三春町等の状況を勉強させていただきながら、説明員をつける形で対応を考えたいというふうなことでございまして、金額的には同じではあります。今年度、その目標により近づけていきたいというふうなことで考えているものでございます。

○佐々木謙二議長 1番、竹田博一議員。

○1番 竹田博一議員 いや、目標は目標でわかりますけれども、余りちょっと目標が大き過ぎるんじゃないかというふうに思います。頑張って達成していただきたいなというふうに思います。

それから、長井市は財政危機状態にあるわけでもございますけれども、市長にお伺いというか、感想をお願いしたいんですけども。

3月1日の山形新聞で「話題の十字路」の記事の中で、長井市の議員定数、議員報酬についてのアンケートがありましたけれども、議員定数については、適正が9人、多いが5人、少ないが1人……。

○佐々木謙二議長 竹田博一議員に申し上げます。通告外になっておりますので。

○1番 竹田博一議員 いや、これはちょっと関係というか、財政のことです。じゃあ……。

○佐々木謙二議長 その辺を配慮して質問してください。

○1番 竹田博一議員 はい。

アンケートについての結果が、市長もお読みになったと思いますけれども、その点について簡単にいいんですから、ご感想をお願いして、私

の質問を終わりたいと思います。

○佐々木謙二議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 感想ということでございますが、まず1つは、地区長連合会の方から、議員定数については要望書という形で私ども市の方にもちょうだいしておりますので、それを見ております。新聞記事についても当然拝見いたしましたけれども、やはり議員の皆様の中でぜひご検討いただいてこれはすべきことかなと。

ただ、今月の市報の方にも掲載してありましたけれども、車座集会の中では、「議員定数をもう少しやっぱり検討すべきじゃないか」と、あるいは「報酬等についてももう少し検討すべきじゃないか」と、もう少し額ですね、「削減のパーセンテージを上げたらいいんじゃないか」というような意見はいただきました。「それについては議会の中で議論いただくようお願いいたします」ということで答えております。以上でございます。

○佐々木謙二議長 ここで暫時休憩いたします。再開は3時10分といたします。

午後 2時44分 休憩

午後 3時10分 再開

○佐々木謙二議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

我妻 昇議員の質問

○佐々木謙二議長 順位10番、議席番号3番、我妻 昇議員。

(3番我妻 昇議員登壇)